

2023年6月14日

北海道寿都高等学校
校長 荻屋正人 様

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会
共同代表 南波 久 ・ 三木 信香

特定非営利活動法人ハッピーロードネットが主催した
「未来につなぐまちづくり塾」に対する
北海道寿都高等学校の事業評価について（公開質問状）

拝啓

私たち「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」（以下町民の会）は、寿都町長が高レベル放射性廃棄物（核のゴミ）の最終処分場選定のための文献調査への応募を表明した2020年8月以降、この問題に強い危機感を抱いた町内外のメンバーで構成しています。最終処分場問題は、客観的・科学的に裏付けされた事実に基づき、寿都町内外の社会的合意をもって議論していくべきと考えています。

既にご存知のとおり、寿都町では文献調査が行われており、私たちは調査や最終処分場の誘致に対する賛否で家族や友人の間でも分断が生じている非常に厳しい現実と日々向き合っております。特に家族内での分断は、北海道寿都高等学校（以下寿都高校）においても無関係ではありません。この問題を、将来世代を担う子どもたちに負の遺産を残さないまちづくりについて町民皆で話し合い、分断のない平穏な寿都に戻ることを願ってやみません。

そういった中で、2022年に特定非営利活動法人ハッピーロードネット（以下ハッピーロード）が「未来につなぐまちづくり塾」（以下まちづくり塾）を主催し、福島県浜通り地域の高校生と寿都町の高校生が相互に町と六ヶ所村を行き来し、地域の課題に向き合って将来について考えるための交流事業が行われました。そして、10月には福島Jヴィレッジにて片岡町長を招いて、高校生らの提案発表会が開かれました。その内容について、寿都町議会議員への報告はありましたが、一般の寿都町民は何も知らされていない状況です。ただ、ハッピーロードのホームページに事業報告書と報告会の動画が掲載されているだけです。

町民の会では、上記報告書と報告会の動画を吟味し、高校生が発表した内容から、このまちづくり塾は、地層処分を推進させるために都合の良い情報が多分に提供される教育環境であった疑いをもっています。また、2022年には荻屋校長が「寿都高校は核のゴミ問題について中立であり、調査に反対姿勢である町民の会の活動周知に協力しない」という趣旨の発言を、弊会のメンバーに行った経緯があったことから、本質問状は「寿都高校がこのまちづくり塾をどのように評価するのか」明らかにしていただくことを目的としています。この町に住み、将来の高校選択に立たされる子供を育てている町民としても、寿都高校の本事業に対する中立の立場としてのご見解を聞く必要があります。何卒よろしく願い申し上げます。なお、回答については弊会のホームページに掲載させていただきます。

敬具

【質問】

1. まちづくり塾事業に要した費用は、誰がどのような形で負担したのでしょうか？
2. まちづくり塾事業に参加した寿都の高校生を、どのように募集して選定したのでしょうか？事業に参加すると生徒が被曝することの説明を、保護者にどのように行ったのか、実際に配布した資料などを合わせて教えてください。
3. 町民の会のメンバーがNUMOによる泊原発の視察に同行した際には、自分が何 μ SV被曝したのか線量計で確認でき、担当者に質問すれば説明もされました。まちづくり塾のテレビの報道番組では、放射線量計測器の警告音が鳴っていた様子が放映されていたので、実際に子供たちが被曝した数値は管理されている物と推察します。高校生が福島第一原子力発電所を視察した際に何 μ SVを被曝したのか、説明はされましたか？氏名を伏せて構いませんので、被ばく線量も併せてご回答ください。
4. 2023年も「未来につなぐまちづくり塾」のような事業は、行われるのですか？もし、再びハッピーロードによる事業に高校が協力する場合は、その事業の企画書、高校の協力の在り方、同行する学生の選定プロセスについて、詳細にご回答ください。
5. 上記4つの質問に引き続き、ハッピーロードが主催したまちづくり塾事業を寿都高校がどのように評価するのか、別紙として質問をまとめましたので、合わせてご回答ください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、私たちの活動の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜うことができれば幸甚です。返信をお待ち申し上げます。

なお、本公開質問状に於いては、寿都高校を所管する北海道教育委員会へも情報共有の必要があると考え、本状を北海道教育委員会へ郵送し、「当会が、このような公開質問状を送り、回答を要望していること」をお知らせいたします。どうぞ、よろしく願いいたします。

【参考】

特定非営利活動法人 ハッピーロードネット <http://happyroad.net/>

「未来につなぐまちづくり塾」報告会動画 URL (YOUTUBEの限定公開モード。動画リンク紹介ページは削除された模様) <https://www.youtube.com/watch?v=zumJ1GxM2TU>

回答期限：2023年6月30日

回答先：Email：kakugomino@gmail.com

郵送：〒048-0401 寿都郡寿都町字新栄町101番6号 町民の会事務局

公開先：「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」ホームページ

<http://kakugomi.no.coocan.jp/>

以上

【別紙】

特定非営利活動法人ハッピーロードネット「未来につなぐまちづくり塾」事業の評価について

◆「未来につなぐまちづくり塾」 報告書に対する弊会の問題意識

- ・特定非営利活動法人ハッピーロードネット（以下ハッピーロード）の「未来につなぐまちづくり塾」事業では（以下まちづくり塾）、高校生たちが、自分たちの町の将来を真剣に考えるきっかけになったことは喜ばしいことだと思います。しかし、高校生が発表した内容をよく読むと、原子力のバックエンド政策を推し進めるために都合の良い発言が目立ち、懸念されるべき問題の多くが無視されているように思われました。特に、地層処分が国際社会からも現時点で最も安全で実現可能な処分方法として、既に与えられたものとして処理され、現状と課題について語られた部分はほとんどありませんでした。
- ・寿都町の地質は、高レベル放射性廃棄物（以下核のごみ）の最終処分には不適切であると言う有識者らの共同声明が出されていますが、報告書には、このような地層処分そのものの安全性に関する懸念は見られません。そして高校生らが視察した六ヶ所村の核燃料サイクル施設を担う日本原燃株式会社は、使用済み核燃料の再処理を26年間も延期して未だに実現できていない問題も触れられていませんでした。報告書には、日本原燃と六ヶ所村村民の関係を、NUMOと最終処分受け入れ自治体の住民の关系到置き換える考察が目立ちました。
- ・私たちは、ハッピーロードにどのような事業展開を行ったのか、高校生に提供された説明資料などの提供を申し入れましたが、期日を過ぎても返答はありませんでした。
- ・つまりハッピーロードネットという組織は、福島第一原発にも保管されている使用済み核燃料を早く県外に排出して復興し、地層処分を寿都町で受け入れてもらうための情報の取捨選択・視察地選定を行うような、いわゆる「地層処分推進側」に立った組織なのではないかという疑いを私たちは強く抱いています。
- ・ハッピーロードは、2016年にも高校生らを被ばくリスクある環境で道路掃除をさせていたことについて、痛烈に批判された組織として私たちは認識しています。
参考) 批判殺到を教訓に? 今年は一っさり開催…
放射能汚染が危惧される福島“6国”清掃活動の意義とは
https://www.excite.co.jp/news/article/Shueishapn_20161023_74051/

◆北海道寿都高等学校（以下寿都高校）への質問の趣旨

- ・2022年の7月、私たち町民の会が開催しようとした「子どもだった原発被害者が今語り始めている事」の告知依頼において、荻屋正人校長は、「寿都高校は高レベル放射性廃棄物問題については中立であるため、核のごみを寿都に持ち込むことに反対である町民の会が主催するイベント告知には協力できない」という趣旨の見解を示されました。
- ・寿都高校がハッピーロードのまちづくり塾に協力したことは、結果的に荻屋校長の言う中立の立場に反することになったのではないのでしょうか?このことについては、「未来につなぐまちづくり塾 報告書」を、どのように寿都高校が評価しているのかお聞きしなければ明らかになりません。

【公開質問状への返答項目】

ハッピーロードの事業報告書に掲載されている内容から、以下の7つの懸念事項に弊会の見解と合わせて質問をさせていただきます。これ以外の問題点、成果についての見解があれば、それについてもご返答ください。

【寿都高校の見解を特に求める報告書問題箇所】

○主催者挨拶 特定非営利活動法人ハッピーロードネット 理事長 西本 由美子

- ・「震災と原発事故から 11 年目となり、ようやく高レベル放射性廃棄物、そしてトリチウム水をテーマに、こうして高校生の皆さんと考える場を設けられる時期にきたと思っています。今回は北海道の寿都町、そして浜通りの高校生が 10 名ずつ、20 名で考えてみようという企画をいたしました。なぜ北海道の寿都と私たちの浜通りが一緒に考えなければいけないかということですが、福島第一原発にある高レベル放射性廃棄物を一体この先どうするのか、若い世代はどうしていけばいいのかという問題と、寿都町長さんが文献調査の受け入れを表明していただいた寿都町、それを若い人たちがどう理解するのかということ。」(以下略)

(懸念事項 1 そのままの開催趣旨)

未来につながるまちづくり塾を事業の表題としておきながら、実際には高レベル放射性廃棄物、トリチウム水問題を考えさせようという趣旨であったことが分かります。このことを寿都高校は、どのように認識していますか？

◆報告会の内容について

〈5 班〉 ■テーマ「大熊町・双葉町と寿都町のこれからのまちづくり」

(報告結果の問題点)

- ・まちづくりに必要な費用を、文献調査の交付金を活用しようという話になっています。

(懸念事項 2 情報操作・誘導の疑い A)

寿都町、大熊町、双葉町でも資金調達方法はさまざまであり、原子力関連資金に限った話ではありません。まちづくりに有効な資金にはどのようなものがあり、他の自治体がどうそれらを活用しているのか生徒に情報が与えられずに、原子力関連資金ありきの情報が高校生に与えられていたのではないのでしょうか？合わせて見解を伺います。

〈3 班〉 ■テーマ「高レベル放射性廃棄物とそれらを取り巻く問題について」

(報告結果の問題点)

- ①地層処分は、人間による管理を必要とせず、将来のリスクを十分に小さくできるため、国際社会からも現時点で最も安全で実現可能な処分方法とされている。
- ②「一言で言えば人間の生活の中で生まれたごみであり、家庭で出た燃えるゴミと同様に処理していくのは当たり前だ」としている。原発だけから出た使用済み核燃料を、わざわざ再処理すると出てくる事業者のゴミが、消費者の廃棄物であると事実がすり替えられて発表されている。
- ③3つの「ない」のうち、「2. 特別視しない」の内容は「高レベル放射性廃棄物は生活によって生み出されたごみとして特別視しない」とし、「3. 先送りしない」では、「目先の利益を優先した行動や、短期的な視点での決定が将来に大きな影響を及ぼすことを今に生きる私たちは身をもって知っている」「将来のためにも先送りすることが許されない」としている。
- ④日本原燃の高レベル放射性廃棄物貯蔵センターで保管されているガラス固化体の直上まで行って来て、放射線漏れが一切なかったことを確認した。

(懸念事項 3 情報操作・誘導の疑い・誘導 B 以下の番号は結果の番号に対応しています)

- ①国際的には地層処分が有効とされていることは事実ですが、日本においては賛否両論であり、「変動帯」として世界からみても地殻変動が激しく、特別視されている地質である問題を高校生に伝えていない、または限定的にしか伝えていない疑いがあります。
- ②産業廃棄物の問題は汚染者負担原則であると言う1992年の地球サミットで採択された「環境と開発に関するリオ宣言 第16原則」を高校生に伝えていない疑いがあります。
- ③完全に事実誤認です。特別視されるほど危険であるから一般廃棄物、産業廃棄物とは別に法律も作られ安全対策の問題が論争となっていることが高校生らに認識されていません。日本では拙速に地層処分することが想定外の放射能漏れを引き起こし、まだ生まれていない将来世代に放射能汚染をもたらすリスクを生むという有識者らの視点が完全にカットされて説明された疑いがあります。
- ④高レベル放射性廃棄物貯蔵センターでは地表での中間貯蔵であり、日本での地層処分に反対する有識者が提案する暫定的な保管の一種であり、地層処分ではありません。実際にガラス固化体を地下に埋めて長期間にわたって放射性物質を地上と隔離できるかが論点です。それにも関わらず、ガラス固化体は安全に地層処分できるかの様に、話がすり替えられて説明された疑いがあります。

これらについて、寿都高校の見解を伺います。

(1 班) ■テーマ「寿都町のこれからのまちづくり」

～文献調査を選択しなかった場合と、選択した場合の比較検討～

(報告結果の問題点)

- ・文献調査を行ったことで地域内インパクトが生まれた。文献調査に手を挙げたことによって、まちづくりの機会が生まれ、他地域からの注目、ふるさと納税での応援の声、交付金という財源の獲得が例に挙げられ、まちづくりのチャンスになるのではないかと考えた。

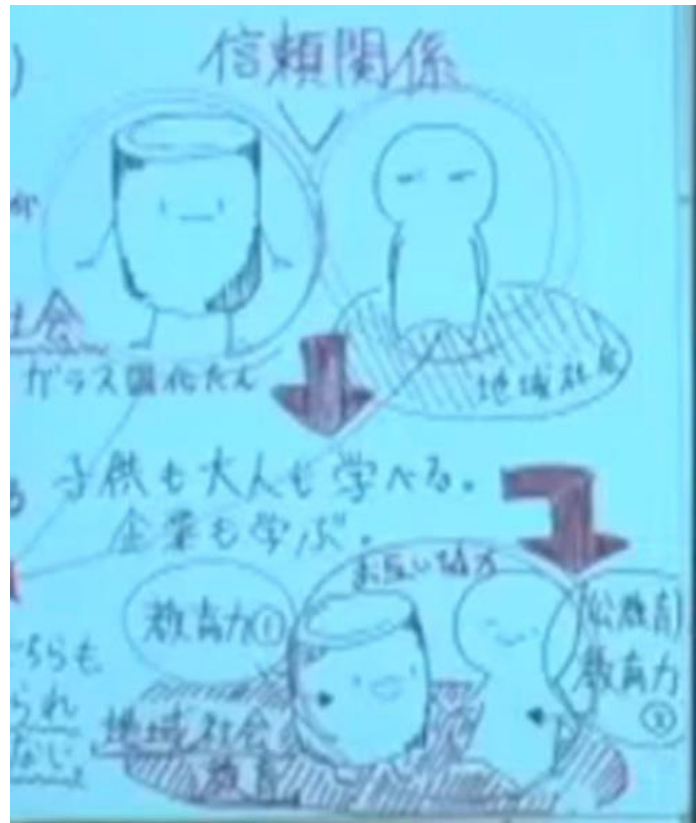
(懸念事項 4 情報操作・誘導の疑い C)

- ・文献調査を片岡町長が検討したこと、水産加工会社に相当数のクレーム、不買宣言が寄せられたこと、隣接3自治体が核抜き条例を制定して、寿都町の文献調査に抵抗する姿勢を示した事実が抜け落ちています。“寿都町の文献調査”が日本全国から称賛され、まちづくりにおいて全く問題がないかのように認識させる誘導がなされたのではないのでしょうか？

(4 班) ■テーマ「まちづくりを考えるために必要な教育と多世代意見交換の場の必要性」

(報告結果の問題点)

- ①「自分の意見を持つときには、最終的に自分の目に頼ることが一番重要。なぜなら、報道で聞いた情報より、実際に目で見ることで初めて得られることが多いからだ。私の実感としても、私が見てきたことを話すときに自信が持てます。」と発表。
- ②「高レベル放射性廃棄物は、事故が原因で発生しているものではなく、全国各地にある原子力発電所から排出されるものだ。そして、自分のごみは自分で片付けなければいけない、日本で出るごみは日本で処理しなければいけないと思います。」と発表。
- ③教育がまちづくりの第一歩、の項目ではガラス固化体のマスコットキャラクター「ガラス固化タン」が提案されており、NUMO と地域住民が信頼関係を構築する説明で住民と接近する描写がなされた。



報告会映像から抜粋 <https://www.youtube.com/watch?v=zumJ1GxM2TU>

(懸念事項 5 情報操作・誘導の疑い D 番号は結果の番号に対応しています)

- ① 地層処分に関しては、これを推進してもらいたい日本原燃にとって都合の良い現場だけを見せることで、多角的な情報を総合的に考えるよりも、高校生らが「自分が目にできたもの」を優先する考え方になるように誘導された疑いがあります。
- ② ガラス固化体を「消費者が出したごみ」という趣旨で説明されたかのような解釈がなされていますが、現実には電力会社が出したごみを再処理すると排出されるものです。3班の報告と同様に誤解していることから、全体に向けて説明された内容に誘導の意図があった疑いがあります。
- ③ ガラス固化体は、人が近づいてはいけない地球上でもっとも危険な廃棄物です。しかし、これをマスコットキャラクターにすると言う、資源エネルギー庁の下堀課長も「なかなかあれを大人がやりだすと批判を受ける」と苦笑する（実際の映像より）ような解釈を、高校生がしています。中間貯蔵ができていないことをもって、ガラス固化体そのものが安全であるかのように錯覚するような説明がされた疑いがあります。3班の報告度同様の事実誤認があります。これらについて、寿都高校はどのように評価しますか。

〈2 班〉 ■テーマ「放射能と風評被害について」

～福島の実例を参考に高レベル放射性廃棄物による風評を考える～

(報告結果の問題点)

- ・「六ヶ所村と日本原燃の関係が風評という観点でも重要になると思います。この六ヶ所村の実例は東京電力や国との間で信頼関係に揺らぎのある福島県内の現状に重ね合わせて考えることができると思います。」と発言している。

(懸念事項 6 情報操作の疑い・誘導 E)

・原子力災害を引き起こした東京電力と、核燃料サイクルを実現できずに26年足踏みしているがゆえに放射能汚染が起こらず経済的なメリットだけを住民にもたらしている六ヶ所村の日本原燃を「信頼」を論点に重ね合わせることは無理があります。にもかかわらず、高校生たちが六ヶ所村の事例をうまくいっている事例と誤解させる誘導があったのではないのでしょうか？

〈全体を通じての結果〉5つの班に分かれて議論をしているが、原子力政策の課題・地層処分の課題というテーマを検討した班が作られていない。

(懸念事項 7 情報操作・誘導の疑い F)

・どんな政策や技術もメリットとデメリット、長所と短所、限界があります。中立で客観的な議論がなされたのであれば、教育の観点からも政策や技術を批判的に検討する班が一つくらいできるのが自然に思われます。しかし、全ての班で原子力政策に沿ってどう、まちづくりをするのか、地層処分と共生していくのかという趣旨の議論となっています。議論の方向性があらかじめ決められてあった疑いを持たざるをえません。すべての班が原子力政策に沿ったまちづくりを議論していることについて、寿都高校はどう評価しますか？見解を伺います。

以上7つの疑いについて、寿都高校として「まちづくり塾」事業が、果たして中立な教育環境にあったのかどうか、返答いただきますようお願い申し上げます。これ以外の問題点、成果についての見解がございましたら、ご教示いただけますようお願い申し上げます。